



しらさぎ

求めて学ぶ 考えて行う 自ら鍛える

目黒区立第八中学校
学校だより NO. 5
(通巻188号)
令和元年(2019)
5月30日(水)

『見どころ満載 楽しみな運動会』

校長 飯野 博史

6月1日(土)の運動会が近づきました。天気予報では晴れ、生徒たちの活躍をぜひご覧ください。よろしくお願いいたします。

■運動会の見どころ紹介

今年度は通常の学級が各学年とも三学級となり、縦割り学級を意識して取り組みます。A組は赤、B組は白、C組は黄色で、表彰は各学年対抗の他、全校での色別対抗でも行います。色別対抗リレーもあり、応援も盛り上がると思います。

E組は青色ですが、全員リレーで3年生の精鋭選手がいっしょに走ったり、学年種目に参加したり、交流を深めていきます。

午後の部最初のプログラムは「舞い降りたしらさぎのエイサー」です。「エイサー」に取り組んで5年目となり、すっかり八中の伝統となりました。全校生徒による迫力ある演技をお楽しみください。今年度もプロダンサー石井 武先生にご指導をいただきました。

入場行進、ラジオ体操にも力を入れました。堂々とした力強い行進、全員が揃ったラジオ体操もぜひご覧ください。また、各競技の入退場も演技の一部として大事にしています。細かいところにもご注目ください。開・閉開式での吹奏楽部の演奏、今年度から男女一各ずつで行う選手宣誓にもご期待ください。

八中の運動会では競技だけでなく、運営面で生徒の自主性を伸ばすように工夫しています。各学級から運動会実行委員が選出され運営にあたるほか、生徒会専門委員の生徒たちが招集誘導、審判、放送、救護などの係を担当します。自主的に動く生徒たちの姿にもご注目ください。

体育館の窓に各学級の意気込みを掲示します。優秀作品には今年度から「校長賞」を授与することになりました。

当日は保護者の方の昼食場所として体育館を開放します。ぜひご利用ください。

8時45分入場行進開始です。応援よろしくお願いいたします。

◎6月の主な行事予定

1日(土) 運動会	13日(木) ~ 15日(土)
2日(日) 運動会予備日	修学旅行(奈良・京都方面)
3日(月) 振替休業日	17日(月) 学年朝礼、振替休業日(3年)
5日(水) 歯みがき週間	18日(火) 専門委員会
6日(木) 避難訓練	19日(水) 小・中連携の日
7日(金) 教育実習終	21日(金) 中央委員会
8日(土) ウィークエンドスクール	23日(日) ~ 26日(水)
10日(月) 全校朝礼、水泳・宿泊前健診	八ヶ岳自然宿泊体験教室
12日(水) 職員会議	25日(火) 前期中間考査(3年)
13日(木) ~ 14日(金)	27日(木) 進路説明会(3年)
前期中間考査(1,2年)	振替休業日(1年)

5月30日 開校記念日
美しくも哀しい『しらさぎの伝説』



目黒区立第八中学校校歌

佐藤春夫 作詞

大中寅二 作曲

君は聞かずやむさし野の
碑^{ひふすま}衾あたり伝えいう
信義に生きし白鷺の
形見と咲ける野の花ぞ
今わが校の^{しるし}記章なる
君は見ざるや目黒区の
竹より直く学ぶ子は
正義と真理愛しつつ
命の華を生ききそい
みな^{いそしみ}勤労に楽しむを

5月30日は開校記念日です。本校は昭和22年に開校しましたので、今年で開校72年目を迎えます。開校記念日にちなんで、本校の校歌と校章の由来についてご紹介します。第六代大脇憲三校長先生（故人、昭和38年4月～昭和45年3月まで在職）のお話を当時のPTA広報担当の方が聞き取ったものです。（毎年掲載しています）

我が八中の校歌の歌詞、又校章にデザインされた「さぎ草」の由来を、皆様ご存じでしょうか。

さぎ草は高さ15～20センチメートルの多年草の湿地ランの一種で、世田谷区の花に指定されています。昔、碑衾村と言われた八中所在地あたりから、世田谷区奥沢鷺の谷にかけて、田圃のあぜ道にやさしい白い花を咲かせていたと言われております。

この小さな花には次のような悲しく、美しい話が伝えられています。

今から650年程前の室町時代のことです。世田ヶ谷城主の吉良氏が住んでいました。

この城主の奥方は、奥沢城主大平氏の娘でトキワ姫といい、戦国の世に見られた両城主との間をつなぐための政略結婚でした。しばらくは平和な生活が続きましたが、ある時、領地の境界の争いから遂に二人の城主が戦うことになりました。大平方の一隊は吉良方の世田ヶ谷城近くまで攻め込みました。トキワ姫は大変この戦いに心を痛め、講和か救援を頼むほかはないと思われ、以前より可愛がっていた一羽の白鷺を使いとして、脚に手紙を結びつけて放ちました。白鷺は城の上空を二、三回飛び回ると、古巣である奥沢城に向かって飛び去りました。

ちょうど今の八中あたりまで来た時、敵兵に見つけられ、弓で射ち落とされてしまいました。羽を打ち抜かれた白鷺は、白い体真っ赤な血で染めながらもバタバタと懸命に飛び上がろうともがきましたが、力尽きて息絶えました。

世田ヶ谷城はトキワ姫と白鷺の努力もむなしく敵の手に落ち、トキワ姫も自害しました。

しかし、その後白鷺の死んだ田圃のあたりから一本の草が生え、白い花をつけました。よく見ると白鷺が足に短冊をつけて飛んでいるようです。

これを知った人々は、白鷺の魂が花になって生まれ変わり、自分の主人のために信義に生きようとした姿だと白鷺の死を悼み、さぎ草を形見として大切に育て、またこの話を永く伝えました。

今は九品仏のさぎ園など限られた場所でしか見られなくなったさぎ草ですが、八中が創立された折、校章にデザインされ、また校歌の作詞を依頼された佐藤春夫先生もこの伝説に感銘を受けられ、「信義に生きし、白鷺の形見と咲ける野の花ぞ…」と歌い込まれたそうです。